

一般社団法人
建設コンサルタンツ協会 東北支部

JCCA TOHOKU

明日への風、
東北から



vol. **57**
支部だより 2018.4

目 次

Vol.57

- 巻頭言
「東北支部と共に」
……一般社団法人建設コンサルタンツ協会 東北支部 副支部長 伊藤 篤 1
- 特別特集
「被災地は今（福島県いわき市）」
……(株)東コンサルタント 佐藤 敏倫 2
- 海外紀行
「ネパールはどんなところ？」
……(株)建設技術研究所 野村 貢 5
- 技術シリーズ
「『道路調査設計ノウハウ集』改訂について」
……技術部会 道路専門委員会委員長 大日本コンサルタント(株) 岡田 篤 9
- 女性技術者が思う建設コンサルタント
「建設コンサルタント業界の魅力と思うこと」
……大日本コンサルタント(株) 無量井 春菜 11
- 私の趣味
「ゴルフ道の探求～エイジシュートに向けた闘い（迷走？）～」
……(株)双葉建設コンサルタント 海藤 剛 12
- 土木施設シリーズ
「鳴子ダム 新緑の『すだれ放流』」
……(株)復建技術コンサルタント 荒木 孝廣 14
- 現場見学会
「河川・環境専門委員会合同現場見学会に参加して」
……国際航業(株) 佐々木 秀明 15
……(株)復建技術コンサルタント 佐々木 瑞乃 16
「構造・道路専門委員会合同現場見学会に参加して」
……(株)東京建設コンサルタント 及川 拓也 17
……(株)三協技術 鷺鷹 誠 18
「第5回東北震災復興i-Construction（ICT）連絡会議（現地視察）」
……(株)復建技術コンサルタント 滝上 忠彦 19
- 新規会員の紹介
「『交通インフラ総合コンサルタント』を目指していきます」
……(株)片平新日本技術 中村 正人 20
- 支部活動報告
平成29年度 意見交換会について…………… 22
第8回 復興加速化会議…………… 24
- 平成29年度 RCCM資格試験…………… 25
- 平成29年度 RCCM登録更新講習会…………… 26
- 委員会紹介
「50周年記念事業実行委員会」……………実行委員長 松川 秀敏 27
- 特集
「講演会の報告」…………… 28
- 支部だより…………… 29
- 会員の動向…………… 34
- 東北支部 会員名簿…………… 36
- 編集後記……………広報委員 樋口 章大 38



東北支部と共に

一般社団法人建設コンサルタンツ協会東北支部副支部長 伊藤 篤

この度、JCCA TOHOKUに執筆する機会を頂き、改めて自分と協会の関わりについて思い起こしてみました。

弊社の協会加盟は昭和55年5月で、当時は「株式会社新和調査設計事務所」という大変長い社名でした。交付された会員証には「第一四四号」と記されており、40年近いお付き合いである。当初は会社も小さく、協会活動は行っていなかった。弊社2代目社長の河合正克が平成11年から監事に就任しているが、私が本格的に協会活動を始めたのは平成13年と記憶している。

情報化委員会とCALS/EC部会

CALS/ECの導入が決まり、東京での本部講習会に参加したのが協会活動のきっかけとなった。当時の情報化委員会にCALS/EC部会が創られ、本部講習に参加した者の中から強制的？に委員が集められ、委嘱を受けることとなる。

CALS/ECの浸透を図るために、東北各県で説明会を行うのが目的の作業部会であった。概要から電子入札、電子納品等を5名程度で解説するもので、仙台以外では盛岡や秋田で講師を担当させて頂いた。説明する者としてCALS/ECインストラクターやエキスパート資格も取得したが、更新の必要もなくなり、すでに返上している。その後、部会が委員会に吸収され、情報化委員会委員として7年ほど活動させて頂いた。

平成20年は支部設立40周年記念にあたり、各委員会から準備委員が招集され、記念誌の編集に参加させて頂いた。当時、中央のコンサルタントの優秀な社員の方とふれあう機会が持てたことは、大変有意義な経験となり、その後の活動に繋がっていくこととなる。

支部役員

平成20年に社長に就任すると、委員会委員ではなく弊社3代目社長溝江徹也の後任として役員を仰せつ

かることとなった。監事を一期、対外活動委員会（当時は総務委員会という名称）副委員長を三期務め、東北各県との意見交換会の提案議題の整理と調整を行うこととなるが、各県の制度や考え方には温度差があり、決められた日程に合わせての作業はほとんど余裕がなく、毎年大変な作業であったと記憶している。

昨年までは、対外活動委員会中田委員長を中心に提案議題の整理と調整をお願いしていたが、綿密に準備頂く資料のおかげで、有意義な意見交換会を持っており、そのご努力と熱意に感謝申し上げたい。

副支部長として

平成24年には、前副支部長石塚旗雄氏（東邦技術株式会社社長、後に会長）の後任として、副支部長を拝命することとなった。

石塚氏は、まさに「威風堂々」そのもので有り、副支部長としての風格を備えておられ、直接後任としての打診を頂いたときなどは、若輩の身としては大変な緊張の中で「努力いたします」と、お返事させて頂いた。氏は特に、地域コンサルタントの地位向上に尽力され、本部企画部会に地域コンサルタント委員会が設置されたのも、石塚氏の数多くの偉業の一つである。

私は、東北支部内で「支部長を補佐」する事を第一に考え、6年努めさせて頂いている。各県意見交換会では、閉会の挨拶と謝辞を述べさせて頂いた機会が多いが、その日の意見交換の中から御礼部分を見極め、締めくくるのは結構神経を使うものである。

本年は、東北支部50周年の節目に当たり、11月には記念式典も予定されております。40周年にも関わらせていただいていたことも有り「総括」という役職も頂きました。実行委員会を中心に準備を進めておりますが、東北支部会員皆様のご協力をいただきながら、次の50年・100年団体の土台をしっかりと築いていければと精進して参ります。

被災地は今（福島県いわき市）

株式会社東コンサルタント 佐藤 敏 倫

はじめに（位置・地勢）

福島県いわき市は、東北地方の南東端茨城県と境を接する、市域面積 1,231.35km² と広大な面積（東京 23 区の約 2 倍）を有する人口約 35 万人の中核市です。気候特性は、太平洋を流れる黒潮の影響を受ける関東地方の延長線上にあり、比較的寒暖差の少ない晴れの日が多い温暖な土地柄です。



いわき市位置図

地形は、市域の西側が阿武隈高地の東縁を形成しており、市境の標高 500 ～ 700 m から海岸に向け緩やかに傾斜し、夏井川や鮫川などの河川を間に沖積平野と洪積台地が交互に展開する形で、低地を中心に市街地が広がっています。また、太平洋に面する海岸線は南北 60km に及び、交互に展開する砂浜と海食崖が織りなす地形が漁港・国際貿易港・海水浴場・景勝地とそれぞれに形成しています。

江戸時代末期に石炭が発見され、明治期以来石炭産業がこの地域を牽引してきました。昭和 30 年代以降の石炭産業衰退後は工業都市として脚光を浴びる中、地域の一体的な発展を目指して合併が促進され、昭和 41（1966）年 10 月に 5 市 4 町 5 村が大同合併して「いわき市」が誕生しました。

以来、工業や観光を中心に東北地方南部の拠点都市としての道を歩んでいます。

東日本大震災の発生

平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分、宮城県沖を震源とするマグニチュード 9.0 という日本観測史上最大規模の地震が発生しました。いわき市では震度 6 弱を記録し、その後の茨城県鹿島灘沖で発生した巨大余震によって増幅された第 2、3 波の巨大津波により、60km におよぶ海岸線と集落、小名浜港をはじめとする 8 つの漁港などを持ついわき市にとっての被害は甚大で、多くの人命が奪われることとなってしまいました。

また、東北地方太平洋沖地震から 1 か月後の 4 月 11・12 日、いわき市は連続して直下型の大地震災に見舞われました。いずれも震度は 6 弱の大きさで（マグニチュード 7.0、6.4）、この余震により市内の内陸部では落差 2 m 前後の断層が連続して地表に出現するなど、各地で地割れや亀裂が生じ、山腹崩落による土石流の発生や、主要地方道の人口斜面が大きく崩落して長期に亘る交通障害を引き起こすなど、内陸部でも甚大な被害を受ける結果となってしまいました。

復旧・復興の状況

震災より 7 年が経過しました。福島県は、今年（2018 年）2 月 7 日に「津波被災の県公共土木施設の復旧状況は、今年 3 月末で 84% の完了見通しであり、2020 年度中までには事業完了を目指す」との発表を行いました。（原子力災害による帰還困難区域を除く）

このような中、いわき市でも着実に復旧事業は進んでおり、平薄磯地区では今年（2018 年）3 月末までに、海岸堤防・道路・防災緑地による津波の多重防御態勢が初めて整う運びとなっています。

さらにその防災緑地の背後地では、いわき市が行っている震災復興土地区画整理事業も着実に進み、市内全地域の整備を含め、3 月末にて完了予定です。

復興住宅は、いわき市では地震・津波被災者向けの「復興公営住宅」16 ヶ所 1,513 戸すべての整備が平成 27 年度末までに完成している状況です。

あわせて福島県にて整備が進められてきました、原発災害により避難を余儀なくされてしまった双葉地方の方々へのいわき市内の復興住宅の整備も、今年度



多重防御態勢設備



福島県原発災害避難者ユーザー建て型復興公営住宅（小川町家ノ前地区）



豊間地区震災復興区画整備事業整備状況（H30.2）

（2018年3月）をもって1,672戸（16団地）が完成する運びとなりました。

平成23年4月11・12日に内陸部にて発生した大規模余震による被災復旧状況については、いわき市と中通り地方を結ぶ重要物流道路である主要地方道いわき

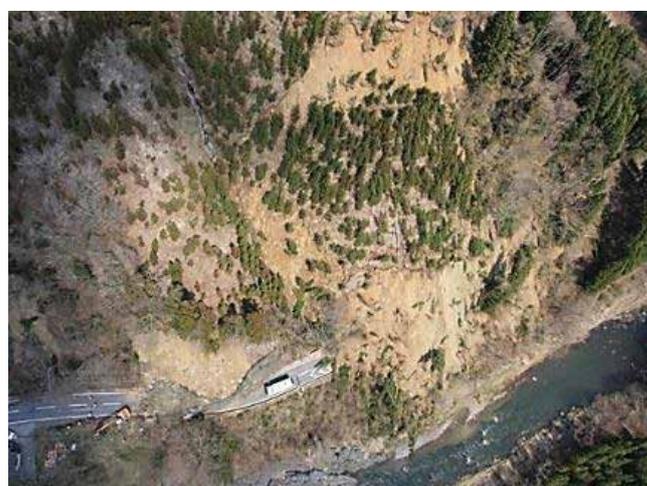
石川線の田人町才鉢地区において大規模崩落が発生して約5ヶ月の通行止めを余儀なくされましたが、対岸への仮設付け替え道路による暫定復旧を経て平成24年12月に全面開通しました。しかしその後、隣接する区域において大規模法面崩落（H26.4）が再び発生し、約半年間通行止めとなってしまいました。（平成26年9月暫定交通開放を経て平成27年1月に全面交通開放）

このことから福島県では、災害に強い道づくりを目的としてバイパス事業（L=3,070m）に着手しており、早期完成を目指して、平成29年2月に起工式が執り行われています。

南東北の中核港湾「小名浜港」は、国際貿易港として、さらには県内最大級の観光地として発展してきましたが、震災によりすべての岸壁が使用不可能になり多くの観光施設も被災しました。しかし、震災後より緊急物資輸送確保等のため緊急・応急復旧が進められ、平成26年3月には物流機能を担う主要岸壁における災



いわき市復興公営住宅（久之浜地区）



被災時状況（H23.4）（福島県いわき建設事務所提供）



復旧状況 (H24.12) (福島県いわき建設事務所提供)



小名浜マリナブリッジ



小名浜港全景

害復旧工事が完了しました。

小名浜港では、復興を支えるエネルギー供給拠点として、東地区国際物流ターミナル事業が進められており、平成29年3月に臨港道路の橋梁部である『小名浜マリナブリッジ』（橋長927m 幅員10m 航路部(510m) 構造5径間連続PCエクストラードード橋）が完成しました。地域の産業や観光にも寄与するランドマークとして大いに期待されているところです。

おわりに

いわき市の復興状況について紹介させていただきましたが、このように、この地域の復興は着実に進んでおります。また、福島県にて位置付けられた「ふくしま復興再生道路」の整備も平成30年代前半までの完成を目指し取り組まれています（小名浜道路、国道399号等）。しかしその一方で、東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性物質の拡散・汚染を受けた本県では、漁業の操業制限などが今なお続いており、隣接する相双地域の復旧復興は、まだまだこれからのところが多いのが現状です。荒廃した帰還困難区域の現状を見るにつけ、私たちこの地域に根差す者にとって、相双地域の復興なしではこの地域の真の復興はないとの思いが強いのが実情です。私どもは、この地域に根差す建設コンサルタントとして真の復興が成されるまで全力で取り組んでまいります。

建設コンサルタンツ協会の皆様には、この地域への今までのご貢献に感謝申し上げますとともに、今後ともご支援いただけますことをよろしくお願い致します。

ネパールはどんなところ？

株式会社 建設技術研究所 野村 貢

1. はじめに

ネパールについて、皆さんはどのくらい知っていますか。世界最高峰エベレスト(ネパール名:サガルマータ)がある国、お釈迦様が生まれた街ルンビニがある国、カレーの国などなど、知っているようで知らないネパール。ネパールは、2015年に中北部を震源とする大地震に見舞われましたが、各国からの支援を得て復旧、復興が進んでいます。今年度、JICA委託業務でネパール入りした際に撮影した写真などを用いて少しご紹介したいと思います。

2. ネパール連邦民主共和国いろいろ

(1) 歴史と政治

ネパール国は4世紀ごろから王朝政治と地方の割拠を繰り返しながらも独立を保ってきました。1814年にはイギリスと戦争し敗れましたが、植民地にはならずすみしました。1990年代から少数民族を中心にマオイスト闘争が始まり、国内は不安定化しました。2001年には王宮で国王一家が殺害される事件が起き、一時期は国王直接統治となりましたが、2008年に王政は廃止、現在の政治形態となりました。2017年12月、2018年1月に連邦議会、地方議会の選挙が行われ、ようやく連邦制が機能し始めようとしています。

(2) 民族、宗教など

ネパールは、北部にバルバテ・ヒンドゥーが約50%、ネワール族が約6%住むほか、南部タライ地方にはマデシ、北部山岳地方には山岳ガイドで名高いシェルパ族などが住む多民族国家で、ヒンドゥー教徒80%、仏教徒10%、ムスリム4%と宗教も多様です。識字率は概ね50%とされていますが、地方ではまだ学校に行けない子供もいます。一方で首都カトマンドゥに住む中産階級以上の家庭の教育水準は高く、日本や中国、英国へ留学する若者も多くいます。英語教育を行っていることもあり、市内であれば概ね英語でのコミュニケーションが可能です。

(3) ネパールの生活

首都そして唯一の国際空港のあるカトマンドゥは標高1,300mの高層盆地にあり、このカトマンドゥ・

バレーと呼ばれる盆地に全人口2,700万人の約7%、180万人が暮らしています。在留邦人は約1,000人で、日本人会も設立されています。



カトマンドゥ・バレーの風景

食事はダルバート・タルカリと呼ばれる野菜の総菜が付いたカレーが基本ですが、チベット料理や日本料理、コンチネンタルもカトマンドゥでは充実しています。



モモ(MoMo/水餃子)とダルバート・タルカリ

さらにカトマンドゥ・バレーにはゴルフコースも2つあり、ロイヤルネパール・ゴルフクラブはアジア最古のゴルフクラブのひとつでもあります。

ネパールの暦は太陽暦ですが、面白いことに独特なサイクルを持っており、毎週土曜日は休日ですが、日曜日は平日です。これは馴れるのに少し時間が必要です。また、ネパール人はあまり時間に厳密ではないことや、とにかく人が良いので「断れば良いのに断り切れず、結局できずに悩む」という何か東北人の風土に少し似て微笑ましいところがあったりもします。



Gokarnaforest Golf と Royal Nepal Golf club
Gokarnaのスタート遠方にはヒマラヤが！



タメル街中の賑わい

カトマンドゥは複数の王都が融合してできた街で、タメル、パタンという二つの中心地があります。

タメルは旧王宮もある繁華街で、11月のハイシーズンには世界中から観光客がやってきます。

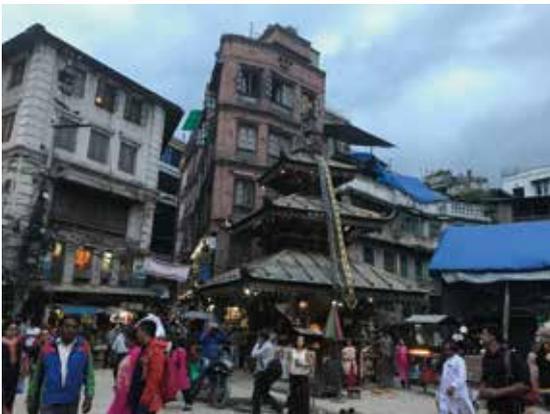
パタンは、世界遺産のダルバール広場を中心に旧王宮や寺院が遺されており、タメルとは違った賑わいを持っています。



タメルの街路の状況



世界遺産 ダルバール広場



タメルの街中風景



ダルバール広場：震災で傷んだ寺院、仏塔の修復中



タメルの街中風景：震災で傷んだ建物を何とか使用

3. ネパールの自然、国土

(1) 南部平原（タライ平原）

ネパールの緯度は日本の南西諸島と同じくらいですが、北インドから続く南部のタライ平原の最低標高は約80mで熱帯～亜熱帯気候です。ヒマラヤ造山滑動により隆起した山岳地域から流出した砂礫からなる平原地帯で、大水田地帯となっています。



タライ地方の水田風景



中部山岳地域の風景 (Sindhuli Road)

中部山岳地域から大量の砂礫が供給されるため、全般に河床が高く、ハイウェイ（幹線国道）であっても河床からの余裕高さが取れないため、大雨が降ると冠水してしまいます。2017年夏の洪水は被害甚大で、多くの被害が出てしまいました。



幹線国道脇の河床状況 (Tribhuvan Highway)



2017年夏の洪水 (Janakpur 近郊)

(2) 中部山岳地域

四角な国土の南部平原を北上すると、中部山岳地域そしてヒマラヤ地域となり中国と国境を接しています。ネパール＝山岳地域というイメージの中心になるのがこのエリアです。

カトマンドゥを含む中部山岳地域は標高も高いため、日本の関東くらいの気温です。ネパールの気候は雨期と乾期の2シーズン型で、5月から10月までは毎日雨が降り、それ以外はほぼ降りません。そのため、盆地でもあるカトマンドゥの冬場のスモッグは特にひどく、薪炭の使用禁止など様々な取り組みがなされていますが、基本的に車しか交通手段のない国なので、改善が追いついていません。

カトマンドゥおよび中部山岳地域の地質は、大まかには強く変成を受けた古生代の堆積岩とその二次堆積物からできています。そのため斜面は不安定で、あちこちで崩壊していますが、まだそれを積極的に抑止する能力に乏しいのが現状です。写真の法枠工は日本の無償援助により2015年にSindhuli Road事業のなかで建設されたものですが、これまでに見たことのない造形ということで、なぜか有名な自撮りスポットになっています。



道路脇の切土斜面の状況、唯一の斜面防護工 (Sindhuli Road)

4. ネパールの交通

(1) ネパールの交通事情

ここでは、ネパールの交通について紹介します。国内の主要交通は完全に道路交通に偏っており、主要物流の90%近くを道路交通が担っています。地形・地理上の不便から空港は全国に10以上ありますが、国際空港はカトマンドゥ（トリブヴァン空港）のみです。鉄道は、南部国境都市のジャナクプルに60km 足らず

の狭軌（軽便）鉄道（RG=762mm）があるのみです。近年、ようやく庶民もバイクが購入できるようになったこともあり、街中はバイクで混雑しています。

ネパールは資源国ではなく、石油や機械類、加工食品など多くをインドからの輸入に頼っており、輸出入とも70%弱が対インド、そして毎年15%近く輸入が増加していることから、物流幹線の整備が必要となっています。なお、震災後閉鎖中ですが、ヒマラヤ越えの中国との国境道路も存在しており、輸出入とも中国



南部平坦地域の幹線国道（East-West Highway）



中部山岳地域の幹線国道（Prithvi Highway）

が第二位の相手国となっています。

(2) 課題と取り組み

ネパールの交通問題は大きく二つに分けることができます。ひとつはカトマンドゥ市内交通の混雑です。多くの国の都市でマスタープラン、MRT整備が日本その他の国の支援を得て行われていますが、ネパールも例外ではありません。他国より問題なのは、ネパールには鉄道文化がないことから、地下鉄整備は難しいことです。



カトマンドゥ環状道路計画（Ring & Outer Ringroad）

もう一つは山岳地域の物流幹線整備です。写真はカトマンドゥとインドを結ぶほぼ唯一の物流幹線道路ですが、路面状況も悪くさらには道路防災がほとんど実施されていないため、常に遮断リスクを有しています。



物流幹線国道がこの程度（Prithvi Highway）



援助による幹線道路整備の成果（Sindhuli Road）

これらの対応には、わが国からの無償援助で2015年に完成したSindhuli Road事業はじめ、これから多くの資金、技術の導入が必要な状況です。

ネパールいろいろ、いかがでしたか？ とにかく一度訪ねてみることをお勧めします。

『道路調査設計ノウハウ集』改訂について

技術部会 道路専門委員会委員長 岡田 篤
大日本コンサルタント株式会社

1. はじめに

平成11年10月より販売された「道路調査設計ノウハウ集」は、若手技術者への技術の伝承、現場経験不足を補完する主旨で発刊され、全国の道路技術者に広く知れ渡る参考図書となっております。

初版より17年が経過し、これまで道路構造令の改訂や、建設環境への配慮、維持管理の重要性、ICTへの対応等、様々な社会情勢の変化もあり、「道路調査設計ノウハウ集」の更新が必要と考えました。

まずは道路調査設計研究会（委員会、幹事会、事務局で構成）を再度立ち上げるため、平成28年8月より大学教授、国交省、NEXCO、相談役として前委員会メンバーの方々及び各協会の方々に再び研究会への参加協力を依頼し、平成28年11月7日に第1回委員会を開催するに至りました。

道路調査設計研究会 委員会メンバー

	所 属 (役 職)	氏 名	備 考
委員長	東北学院大学 工学部 教授	遠藤 孝夫	
副委員長	宮城大学 事業構想学部 教授	蒔苗 耕司	
委員	東北地方整備局道路部 道路調査官	永尾 慎一郎	
	NEXCO東日本東北支社 総合企画部 総合企画課 課長	白鳥 一也	
	(公財)日本測量調査技術協会	品澤 隆	(バスコ)
	(一社)東北測量設計協会 技術委員長	菊池 透	(菊池技術コンサルタント)
	(一社)東北地質調査業協会 技術委員長	新田 洋一	(基礎地盤コンサルタンツ)
相談役	福山コンサルタント 理事	山屋 敏英	
	復建技術コンサルタント 相談役	佐藤 泰法	



写真-1 道路調査設計委員会開催状況

道路調査設計ノウハウ集は、全国で広く活用されている参考図書であり、これの改訂版となれば、社会貢献度は非常に高いものと思います。

また、本書は初版こそ国土交通省主導で道路調査設計研究会 委員会を立ち上げましたが、主に活用しているのは全国のコンサルタント若手技術者であることから、改訂作業は建設コンサルタンツ協会東北支部主体で取り組むべきと考えました。

2. 改訂の経緯

平成11年、道路調査設計ノウハウ集初版の作成に至ったのは、次の2つの背景がありました。

一つ目は技術者における問題です。

時代の流れと共に、業務量増大、複雑化・多様化、定員削減、外部委託化、直営業務の減少、現場経験の不足などが進み、ノウハウの蓄積（技術の伝承）が難しい時代となりました。

また、CAD等のコンピューターを活用した設計への移行が進むとともに、過程の入り口と出口しかわからない（内部でどのような基準のもと、どのような検討や処理がされているかわからない）といった問題はさらに高まる傾向にありました。

その結果、事業者及びコンサルタントにおける技術力の低下が懸念されておりました。

これらの問題の解決には、技術基準等を補完するマニュアルよりも、失敗・問題事例等を踏まえ、経験をカバーする「ノウハウ集」が特に必要と考えました。

二つ目は公共事業のコスト縮減の一環として、「東北地方建設局 コスト縮減対策行動指針（平成9年7月10日）」が発表されたタイミングであったということです。

道路事業における施策の一つとして、調査設計の充実とともにコスト縮減を図ることを目的に、次の項目が掲げられました。

- * 道路設計プロセスの見直し
- * 調査設計ノウハウ集の作成

この2項目は、相互に関連するものであり、「プロセス」をさらに充実・補完するものとして「ノウハウ集」が位置づけられるものです。

その後、経年による記載内容の変化、政令（道路構造令）・基準・参考文献等の改訂、新たな社会情勢へ

の対応（PI、建設環境、景観配慮、コスト縮減、維持管理の重要性、ICTへの対応）等により、大規模な見直しが必要となってきたことから、再び道路調査設計研究会を立ち上げ、環境部門を新たに加えて、全体を見直しました。

見直しの手法としては、初版作成時と同様にアンケート調査によって、ベテラン技術者のノウハウを幅広く提供頂きました。

それらノウハウは各専門技術者の団体に構成するワーキンググループによって、「若手技術者に伝えるべき技術的ノウハウ」であるかという視点で検討を重ね、改訂版としてとりまとめています。

3. アンケートの実施

アンケートの実施は各関係機関の多くのベテラン技術者から御協力頂きました。

（1）アンケート調査の実施概要

①アンケートの対象団体

【国土交通省】東北地方整備局道路部 及び
東北地方整備局管内各事務所

【地方自治体】東北6県 及び 仙台市

【民間】NEXCO 東日本東北支社、（公財）日本測量調査技術協会、（一社）東北測量設計協会、（一社）東北地質調査業協会、（一社）建設コンサルタツ協会東北支部

②アンケート調査の期間

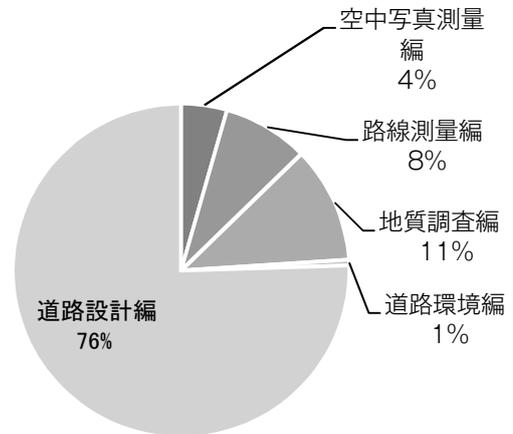
平成28年11月1日～平成29年1月20日

（2）アンケート調査の結果

改訂に当たってのアンケートでは、既存の設問に対し修正や更新をしたほうが良いというケースと、既存の設問には無い新たなノウハウとして提供して頂いたケースの2つがあり、全体で363の回答を頂きました。

	修正・更新	新規設問	合計
空中写真測量編	7	9	16
路線測量編	7	23	30
地質調査編	18	23	41
道路環境編	0	2	2
道路設計編	92	182	274
合計	124	239	363

全ノウハウの内訳



（3）アンケート結果を踏まえた改訂の結果

アンケートの意見はそれぞれの分野のワーキンググループで集計し、内容の重複、趣旨の統合化、系統立てた設問に配慮した上で、初版設問に対しては200問中177問の更新、新規として56問の追加をしました。また、例えば「CADを活用した設計の利点は？」など、時間の経過により記載不要になったノウハウ17問については削除しています。

4. おわりに

ノウハウとしての芯の部分は変わらず、増補された内容になっておりますので、表紙は「増補改訂」としています。

長年蓄積された熟練技術者のノウハウが詰まっておりますので、道路事業に携わる方々（特に若手技術者）にはとても参考となる、お薦めの1冊となっておりますので、ぜひご一読頂ければと思います。



建設コンサルタント業界の魅力とと思うこと

大日本コンサルタント株式会社 無量井 春 菜

1. はじめに

私が思う仕事の魅力・やりがい、弊社の女性の会による取り組みを紹介する上で、建設コンサルタント業界について思うことと今後の目標を述べさせていただきます。

2. 自身の経歴について

車好きだけど車酔いが酷い、そんな高校時代に遊園地までの所要時間が半減するような道路が出来たことは、人生を選択する大きなきっかけとなったと思います。

大学では交通工学・都市計画学を専攻、就職活動を経て、現職に就いており、現在入社7年が経過しました。

中部支社、関東支社、本社研究所を経て、東北支社に参りましたが、交通計画系の業務を主として、再生可能エネルギーの導入検討等やエリアマネジメント等について研究を行ってまいりました。

3. 仕事の魅力とやりがい

私はこの仕事の魅力とやりがいを「自身の提案が大きな国土形成につながること」「地域の人の想いに触れながら仕事ができること」と感じています。

入社3年目に担当した道路網検討業務では、地域経済の発展を下支えする新たな道路軸の検討・提案を行いました。将来の道路の基として、実際に進捗していくのを見ると、そのスケールの大きさに感激しました。



入社6年目に担当した エリアマネジメント活動時の仕事風景

エリアマネジメント研究業務では、まちづくり活動に関する地域実装について一般化を図るための研究を行いました。まちづくり活動を支援する中で、当初は別々に活動していた複数の団体が徐々に協働し、地域への想いを共有して自走し始めた時はコンサルタントとしての醍醐味を感じました。

その一方で、仕事の特性（突発対応が多い等）により、家庭とのバランスを取るのには難しく感じます。結婚当初は思い描いていた“嫁像”と譲れない技術者根性との葛藤し、諦めたこともいくつかあります。

4. 弊社での女性技術者の取り組み

弊社では、女性技術者の会として「なでしこ会」を設立しており、「多くの女性が様々なライフスタイルに応じて働き続けられる環境づくり」を目指して活動しています。現在は産休・育休のマニュアルの作成等、女性に役立つ情報の展開を進めています。女性が働き続けやすい環境を少しでも整えられるよう、今後も幅広く声を聴きながら、活動を継続・発展させていきます。

5. 業界について思うことと今後の目標

当業界は他の業種に比べ変化が緩やかな分、対応能力の低さや革新への抵抗が強いことは大きな課題だと思います。グローバル化への対応が求められる中、従来の設計屋・職人気質からの脱却、柔軟な発想や強い推進力を持つコンサルタントへ成長が必要と感じています。

自身としても、高い技術サービスの提供だけでなく、客先の想いに寄り添うことができる唯一無二のコンサルタントとなることを目標に、頑張りたいと思います。また、当業界を志す女子学生が増えるようなPRについても進めたいと思います。



ゴルフ道の探求

～エイジシュートに向けた闘い（迷走？）～

株式会社双葉建設コンサルタント 代表取締役社長 海藤 剛

はじめに

私は1967年生まれでまもなく51歳になる中年のおじさんであります。山形県の新庄市に生まれ、雪深い土地にありながら、長い冬を越すと身体がウズウズし、芝生へと想いをよせるゴルファーであります。ゴルフというといわゆる「遊び」と思われるかもしれませんが、そこには人それぞれの取り組み方があります。その魅力に取り憑かれた経緯と、今の楽しみ方についてご紹介させていただきます。

ゴルフとの出会い

私は野球好きの家庭で育ち、朝から晩まで野球漬けの毎日を送る野球少年でありました。小学校の3年生から大学まで、大学院の時には一時監督も引き受けたりするほど野球にのめり込んでいました。高校生の時代には日大山形の次に部員の多い(60名)県立新庄北高等学校で一年生から3番を打つほどに得意な種目でした。右投げ左打ちでアベレージヒッター。広角にヒットを放つスタイルを目指し、当時では篠塚、いまでいうイチローのようだったという言い過ぎですが(笑)

そんな私でしたが、高校野球が終わり受験勉強にも身が入らずブラブラしている頃、父がゴルフ練習場へ私を連れて行ってくれたのです。その練習場は貸しクラブが右しかなく、仕方なく右で違和感を覚えながらも野球とは比較にならない飛距離で驚いたのを覚えています。大学でも野球を続けていましたが、ゴルフは右打ちなので野球への影響が少ないため、暇を見つけては貸しクラブで練習をしていました。

ゴルフの楽しみ方

ゴルフは個人スポーツで、基本的にはミスしても他人に迷惑のかかることはないところが一番好きなところ。全部自分で完結します。ですからその楽しみ方も人それぞれでいいと考えています。審判もいませんし(競技委員はいるけれど)、人を負かすところまで真剣でもありません。自分との戦いであり、どうやったら自分の目標に近づいていくのかが、一番大事と考

えています。

究極の目標はゴルファーの夢でもある「エイジシュート」です。「エイジシュート」とは自分の歳よりも18ホールでのスコアが少ないことです。これを満足するためには、健康かつ時間にも余裕があり、金銭面でもゴルフを嗜む余裕が必要となります。また、ゴルフをするには友達も必要です。おそらく80代でのチャレンジになると思いますので、後輩とのラウンドになるでしょう。また、会社の経営においても良好な経営環境を存続させなければなりません。現在はそのため身を粉にして仕事を頑張っている最中です。50歳を期に私はエイジシュートを現実化させるために長期計画を作成しました。(表1)

表1 年代毎の目標

Age	HC	Score	Tee
50代	5以下	72-79	Back Tee
60代	10以下	75-82	Regular TEE
70代	15以下	78-87	Silver TEE
80代	20以下	80-89	Silver TEE

計画を80代で達成ですのには表1のように結構厳しいものがあります。出来るか出来ないかと言えばかなり実現可能性は低いと思いますが、この目標に向かって仕事もゴルフも健康面でも精進していくことで、友達も多く、ゴルファーの目標であるエイジシュートも達成でき、人生の成功者ともなれると考えています。

クラブとスイング

ゴルフはクラブを使用して行う競技であるため、クラブ選びは重要でありゴルフの楽しみ方の一つともいえます。私はクラブの選び方においても、エイジシュートを実現するためを心がけているので、如何に「楽をしてゴルフをする」かを念頭に選んでいます。実際は市販クラブでは満足できずに徳島のショップにて特注で作っていますが、80歳になっても200ヤード飛ばせるようなクラブを5年前から使用しています。こういったクラブをご紹介いたします。

- ヘッド重量を出来るだけ重くする
(ドライバーで通常 200g 弱→ 230g へ)
- シャフトは軽く、柔らかくする
(ドライバーで通常 70g 弱→ 40g へ)

ゴルフボールを遠くにしかも正確に飛ばすためには
①ボールの初速と②打ち出し角と③スピン量が関係していると言われています。80歳の時のヘッドスピード(以下HS)を38m/secと仮定すると、飛距離は一般的にHS×5.3～5.5とされているので200ヤードを超えます。81歳の平均HSは36m/secとされているので、200yをクリアするのはどこで補うかというヘッド重量だと考えています。

$$\text{運動エネルギー} = \frac{1}{2} \times m \times v^2$$

中学生で習った運動エネルギーですが、年を取ってHSが落ちていくのは明白でどこを補うのかと言えばヘッド重量なのかと考えています。

ヘッドだけを重くすると総重量が重くなりすぎて振れなくなるので、シャフトは必然的に軽いものにする必要があります。ヘッドスピードも極力落とさたくないので長さもドライバーは47インチで組んでいます。



写真1 ドライバーの柔らかさイメージ

写真1に示すように、もう釣り竿レベルにしなりませす(笑)。軽く動かすだけでこの通りです。

柔らかさもバランスも市販のものとは違います。

●通常クラブ(DR)
バランス D2～D4 振動数 240～270rpm

●私のクラブ(DR)
バランス E9 振動数 150rpm

シャフトの硬さはあえて5L(レディースの5段階下)でクラブの動きが分かるようにしています。

現在、50代でHC5以下をキープする目標をゲットするために以下の練習をしています。

- ・ヘッドにチョークをつけ、常に芯でボールを打つ
- ・ミート率を測りながら練習する(効率的なスイングを身につけるため)

このクラブにあったスイングを身につけ、エイジシュートを狙っていますが、結果は30年後に出ることでしょう(出来るかな?)。

さいごに

社長になりゴルフの回数も減り、今はなかなか時間を取ることが難しくなってきましたが、30年後のゴルフの目標を立てることで、なんだか仕事のモチベーションが上がっております。今後とも機会があればゴルフも仕事もお誘いいただきますようお願いいたします。

鳴子ダム 新緑の『すだれ放流』

株式会社 復建技術コンサルタント 荒木孝廣



新緑が眩しい季節、東北自動車道古川ICを降り、国道47号を鳴子温泉に車を走らせ、途中、国道108号へ右折し、ほどなく走ると、江合川の豊かな水を湛えるダムが現れます。

昭和27年着工し、昭和32年に完成した鳴子ダムは、治水と共に穀倉地帯大崎平野へ安定した水の供給が可能になり、稲作の一助をなしています。

毎年ゴールデンウィーク頃にダムにたまった雪解け水を放水する「すだれ放流」の規模は、幅95m・高さ80mと巨大な滝のようです。青空と白い滝に泳ぐ鯉のぼりを楽しんではいかがでしょうか。

足に自信がある方にお勧めなのは、廃止になった鳴子スキー場から花淵山に登ることができます。登山道の中腹から見下ろす鳴子ダムも絶景で、いつかチャレンジし

たいと考えています。

そして鳴子温泉で疲れを流し、トロットロの餡をかけた栗団子は、是非食べてもらいたい名物で、お勧めのお土産です。

土木遺産

◇受賞年月平成28年9月

◇受賞理由 複雑なカルデラ地形の地に、外国の技術者を招かずに、日本の技術者だけで建設した我が国初の本格的100m級アーチ式コンクリートダムである

◇参 考 国土交通省東北地方整備局
鳴子ダム管理所

ウェブサイト <http://www.thr.mlit.go.jp/naruko/>

河川・環境専門委員会合同現場見学会に参加して

国際航業株式会社 東北技術部 国土保全グループ 佐々木 秀 明

1. はじめに

私は、2017年10月27日に建設コンサルタンツ協会東北支部主催の河川・環境合同現場見学会へ参加しました。国土交通省職員の方々と同行し、以下の3箇所について見学しました。

- ①気仙川水門
- ②高田地区海岸防潮堤
- ③砂浜再生地区・高田松原再生地区

2. 見学会の感想等

①気仙川水門

工事は右岸側から行われており、ゲートは5門のうち3門、堰柱は6本のうち4本が完成し、説明は4号堰柱にて行われました。工事における環境配慮として、魚類への濁水対策、更にサケの遡上時期の騒音・振動発生を抑制しているとのこと、地元漁協への対応がなされていました。また、景観上の配慮として、赤色の水門が多い中、地味な色・目立たない色として「コンクリート色」を採用しており、コンクリート以外の部分へも色合わせを行っているとのことでした。通常立ち入りできない場所であったため、貴重な体験となりました。



4号堰柱での説明

②高田地区海岸防潮堤

現在建設中の高田地区海岸防潮堤は、気仙川水門への結合部を残す約9割が完成していました。防潮堤は第1線堤（海面高3m、計画延長1,903m）と内陸寄りの第2線堤（海面高12.5m、計画延長2,023m）からなっています。二つの防潮堤の間には防潮林（高田松原）があります。また、堤防を越える津波でも倒壊まで時間を延ばせる「粘り強い構造」とするため、堤体下部を保護するコンクリート打設などを行って

ました。なお、移動・避難のために階段は10箇所以上、スロープは4箇所設置するとの配慮もあり、住民や利用者にも安心できるものとなっていました。

③砂浜再生地区・高田松原再生地区

白砂青松の景勝地で知られた高田松原は、約7万本のマツと砂浜が2kmにわたり広がっていましたが、東日本大震災の津波により流されてしまいました。

砂浜再生は「高田地区海岸養浜技術検討委員会」により技術的検討が行われ、試験施工結果をふまえて今年度から本格施工が行われるとのことでした。

高田松原再生は、地元のNPO法人「高田松原を守る会」などが中心となり、クロマツとアカマツのコンテナ苗木による植樹を行っています。海側の防風柵以外に北西からの強風対策として、苗木の北西側に竹箆を設置していました。なお、奇跡の一本松のDNAは、アカマツとクロマツの両方の特徴を持っており、交雑種であることがわかったそうです。マツは高さ約20mまで育つのに50年ほどかかることから、本当の再生にはまだまだ時間が必要なのだと改めて実感しました。



植栽状況と竹箆（囲み部分）

3. おわりに

現場見学会後仙台市内へ戻り、参加者同士の懇親会にも参加しました。他分野の方々と談笑しながら交流することができ、有意義な時間を過ごしました。今回の経験をもとに、今後の業務に少しでも活かしていきたいと思います。最後に文面上ではありますが、現場見学会を主催して頂いた建設コンサルタンツ協会のスタッフの皆様、見学会の準備・説明等を行っていただいた岩手県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センターの皆様に深く感謝申し上げます。

河川・環境専門委員会合同現場見学会に参加して

株式会社復建技術コンサルタント 保全技術部 技術課 佐々木 瑞 乃

1. はじめに

2017年10月27日に建設コンサルタンツ協会主催の河川・環境合同現場見学会に参加させていただきました。

私は今年の4月に入社し、現在、河川や海岸に関する業務を主とする部署に在籍しております。現場を見学することで構造物のイメージを持つことや、実際の業務のお話を聞いて多くのことを学ぶことを目的として見学会に参加しました。

2. 見学会の感想

2.1 タピック 45

初めに訪れたタピック 45は、東北地方有数の道の駅であり、津波避難場所も兼ねた施設でした。建物は残っていますが、2011年3月11日に起きた東日本大震災による津波の影響で、建物上部を残し水没しました。建物内部には激しい損傷があり、津波の威力の大きさを目の当たりにしました。また、災害時には水没せずにながかに残った上部に登った3名の方が助かったと知りました。避難施設にいても命が保証されるわけではないということがわかり、構造物だけではなく、防災への意識も改める必要があると感じました。

2.2 気仙川水門

気仙川の河口にて施工中の気仙川水門を見学させていただきました。

水門については、管理橋の説明をしていただきました。震災時の最大津波痕跡高が17mと聞き、管理橋付近まで津波が到達したと考えると、災害の恐ろしさを実感しました。

また、鮭の遡上があるため、施工の際の濁水や振動、騒音に考慮し、さらに構造物の色を白くすることで景観も配慮した工夫がなされていま



写真1 気仙川水門

した。災害から命を守ると同時に、自然環境やそこで暮らす人々の生活に支障をきたさないようにするのは難しいことだと思いました。

2.3 高田松原地区

東日本大震災に伴う津波によって約9割が消失してしまった砂浜の養浜計画についてご説明いただきました。本来は気仙川から運搬された砂で構成されていた砂浜を、養浜砂によって再生する事業と知り、自然に生成されたものを再現することは大変なことだと感じました。また、写真2のように松の植樹が行われており、活着も確認されたと聞きました。さらに、風向きを考慮した風よけを設置する等、以前のような環境を取り戻すために様々な工夫がなされていることがわかりました。



写真2 高田松原地区 植樹の様子

3. おわりに

河川・環境合同見学会に参加し、現地に足を運び、構造物や現場の状況を確認することの重要性を改めて感じました。そして業務においては、優先して考慮すべきことを明確にし、環境面と安全性も満足するような検討を進められるよう、今後努力していきたいと思いました。今回学んだことや感じたことを今後活かしていきたいと思います。また、見学会後には建設コンサルタンツ協会に所属する他社の皆様との懇親会も開催されました。普段は他分野の方々と接する機会が少ないため、大変貴重な経験となりました。女性技術者の方々とも交流することができ、励みとなりました。

最後に、文面上ではありますが、河川・環境合同見学会を主催していただいた建設コンサルタンツ協会の皆様、及び岩手県の職員の皆様に深く感謝申し上げます。

構造・道路専門委員会合同『現場見学会』に参加して

株式会社東京建設コンサルタント 及 川 拓 也

1. はじめに

平成29年11月1日(水)、建設コンサルタンツ協会東北支部主催の現場見学会に参加した。

現場は、伊達市の「大柳地区道路改良工事」、桑折町の「桑折高架橋新宿地区下部工工事」、「桑折高架橋橋本地区下部工工事」の3箇所であり、仙台駅からバスで各現場へと移動した。

私は今年、主に橋梁設計の技術者として会社に就職し、実際に施工中の現場に触れることが出来る貴重な機会だと思い、期待を胸にバスに乗り込んだ。

2. 大柳地区道路改良工事

大柳地区道路改良工事現場では、ICT建設機械による法面整形を見学した。従来の法面整形の方法に比べ、ICT建設機械を用いた施工は、丁張り面以下の掘り過ぎを気にせず、簡単に掘削作業が可能で、作業効率・安全性が向上していることが分かった。また、今後直面するであろう労働力不足(職人の不足)にも一役買うものと思われた。ただし、メリットばかりではなく、事前準備に労力を要することや地質状況によっては対応できないなど、デメリットがあることも説明を受けた。(技術革新が進めば今後解決されるものと思える)

ICTという言葉は、最近よく業務で聞くが、実際にICT建設機械を用いた施工現場を見学するのは初めてだったので非常に勉強になった。



ICT建設機械(大柳地区道路改良工事)

3. 桑折高架橋新宿地区下部工工事

桑折高架橋新宿地区下部工工事現場では、P5橋脚の施工現場を見学した。

門型の橋脚が連続して構築される現場は圧巻であった。また、施工後は見ることが出来なくなるフーチングの大きさには驚かされた。



P5橋脚(桑折高架橋新宿地区下部工工事)

施工ヤードでは帯鉄筋を組む作業状況を見学することができた。実際に帯鉄筋を組む状況を見学することが出来、今後の業務で、配筋図等を作図する際にイメージがしやすくなった。

4. 桑折高架橋橋本地区下部工工事

桑折高架橋橋本地区下部工工事では、主にP17鋼製橋脚を見学した。P17橋脚位置は町道やパイプラインと交差するため、他の橋脚と異なる形式を採用していると説明を受けた。

鋼製のラーメン橋脚は、仙台東部道路や仙台南部道路で施工実績はあるものの、最近では施工事例が少ないとのことで、貴重なものを見ることが出来て勉強になった。また、鋼構造はコンクリートの構造と違い、現場でのボルト留めにはミリ単位の精度が要求されるため、製作や仮組み立などが非常にシビアであり、施工業者の苦勞が伝わってきた。

当該箇所は新幹線からも見えるため、付近を通過する際は施工状況を確認したいと思う。



P17鋼製橋脚(桑折高架橋橋本地区下部工工事)

5. おわりに

今回の現場見学会を通して、実際に施工現場を見学することにより、現場をイメージできることが重要であると感じた。今回の経験を今後の業務に活かしたいと思った。

最後に、現場で説明して下さった施工業者の方々、現場見学会を企画していただいた建設コンサルタンツ協会東北支部の皆様には厚くお礼申し上げます。



橋本地区下部工工事現場で集合写真

構造・道路専門委員会合同『現場見学会』に参加して

株式会社三協技術 鷓 鷹 誠

平成 29 年 11 月 1 日に開催された、建設コンサルタンツ協会東北支部主催の現場見学会に参加した。

まず、伊達市の大柳地区改良工事を見学した。

ここでは、道路土工の法面整形工に ICT 建設機械による施工が採用されている。メリットは、①法面切取り時の丁張りが不要であり、人件費が 1/3 削減できる。②熟練者の操作が不要で有資格者であれば施工が可能。③重機の日当たり施工量が 1.5 倍になるが、デメリットは、①施工機械のリース代が通常機械の約 3 倍になる。② 3 次元設計データを作成する際の設計横断面の他、小段排水や法面変化点ごとに追加の横断面が必要だったこと。③軟岩以上の岩盤が掘削内にある場合にはバケットで掘削できなくなるために施工ができないこと等である。

生産性の面からは、熟練された技術者が年々減少し、熟練工で無くても、有資格者であれば作業が出来ることはメリットであるが、最先端の機械施工を導入するとコスト面が掛かるデメリットがあるので、両面を総合的に工期短縮及び最適なコストになる様に比較を実施し、提案することが良いと思われる。



写真1：インテリジェントマシンコントロール

続いて、桑折町の桑折高架橋新宿地区の下部工工事を見学した。

ここでは、SRC（鉄骨複合構造）のラーメン式橋脚の現場で、施工ヤードが狭隘な為、鉄筋組立作業を限られた施工ヤードで行っている現場を見学できた。施工ヤードが制約されている中において、考案された所長の発想力と作業効率を向上させた作業員のたくみな技が間近で見られて勉強になった。



写真2 鉄筋組立作業の様子

今回の見学会を通して、実際に施工現場を見ることにより、構造物のスケール感を知り、設計をする上で現場での動きや課題を把握することができるようになるため、施工の事を踏まえた良い提案を行うことができるようになったと感じた。施工途中の構造物に触れることができた今回の現場見学会では、貴重な体験をさせていただくことができ今後の設計の参考となった。

最後に、此度現場にて説明していただいた方々、現場見学会を企画していただいた建設コンサルタンツ協会東北支部の皆様には厚くお礼申し上げます。

視察報告：第5回東北震災復興i-Construction（ICT）連絡会議（現地視察）

株式会社復建技術コンサルタント 滝上 忠彦

第5回東北震災復興 i-Construction（ICT）連絡会議の現地視察には、東北地方整備局のほか、学識者・自治体・業界団体等、連絡会議構成メンバーが参加し、建設コンサルタント協会東北支部からは菅原支部長（随行員：情報部会 滝上）が参加しました。

目的：震災復興工事の省力化・効率化に繋がるICTの全面的な活用に関する取組み事例を確認することを目的とした現場視察

日時：平成29年9月22日（金）13：00～18：00

視察先：旧北上川左岸魚町上流地区築堤工事

（宮城県石巻市魚町地内）

会議：東北地方整備局北上川下流河川事務所

参加者：25名ほかオブザーバー3名、随行員約10名

視察現場では、3次元起工測量、3次元設計データ作成、ICT建設機械による施工、3次元出来形管理等の施工管理、3次元データ納品の取組みを行っているとの説明がありました。これら取組みにより、工期短縮、人工の生産性向上の他、重機オペレータの熟練工を必要としないなど、担い手問題の解決策の一つになることが説明されました。



3Dマシンコントロール技術ブルドーザ 施工状況

実際に視察したICT施工内容は、3Dマシンコントロール技術ブルドーザによる盛土材敷均し施工、法面整形3Dマシンコントロール技術ブルドーザによる削取り整形+3Dマシンコントロールによる表面仕上げ、TS転圧管理システムによる施工状況等です。

その他、GNSS基準局が取り外し可能なタイプの装置、人を検知すると重機が停止する安全システム、遠隔操作ロボットで重機を動かす技術、現場で使用されているUAVなどの説明を受けました。



GNSS基準局取り外し状況



現場で使用されているUAV



重機の無人運転（ロボットの遠隔操作による施工）

視察したICT施工技術は、取り外し可能な装置や、従来重機をロボット遠隔操作で無人運転を可能にする等、導入の手軽さが感じられました。このような技術により普及が進むとともに、CIMの導入も加速化していくと思われます。



－「交通インフラ総合コンサルタント」を目指していきます－

株式会社 片平新日本技研 代表取締役社長 中村 正 人

はじめに

株式会社片平エンジニアリングと新日本技研株式会社は2017年8月1日合併して新たに株式会社片平新日本技研としてスタートを切りました。

片平エンジニアリングは1970年9月片平信貴により道路専門コンサルタントとして創設され、新日本技研株式会社は1969年7月橋梁専門コンサルタントとして創設されました。

それぞれ半世紀の長い歴史の中で「道路の片平」、「橋梁の新日本」と評価いただけるまでに至っております。

新会社はそれぞれの会社の創業の精神を融和、継承し一人ひとりが積み重ねた新しい高度な技術を、発注者へパートナーとして提供する、自律した『交通インフラ総合コンサルタント』を目指しています。

事業内容

国内では従来の道路、橋梁の調査・計画・設計・維持管理のみならず交通計画と都市計画による交通まちづくり、防災・減災、大規模修繕・大規模更新、環境保全、施工管理、事業監理PPPを拡大し、海外ではグループ会社の株式会社片平エンジニアリング・インターナショナルと連携しています。

事業領域の拡大

合併以前から取り組んでいる事業領域の拡大施策としては主に3つあります。

1つめは、東北の復興に役に立ちたいとの思いから、三陸沿岸道路事業促進PPP業務に参画しました。その後、関東地整横浜国道事務所、九州地整熊本河川国道事務所の事業促進PPP業務にも参画しています。社員にとっては、現場で発注者と一緒に仕事を進めるので、事業の進め方や醍醐味を知る経験になります。

2つめは、まちづくり部署の新設です。少しでも良い街を造りたいという思いがあります。また、入社してくる人材には土木だけでなく景観や環境を専攻した人も多く、それを活かすこともできます。もちろん最終的

には道路・構造物の設計ができる技術者に育てますが、入社した際に仕事のしやすい導入口とも考えています。

同部署が携わった案件としては、上野駅上野恩賜公園口（事業中）や小田原漁港を中心としたまちづくり、二宮駅北口駅前広場整備があります。まちづくり整備のなかには当然道路整備があります。道路や構造物、交通計画なども含めて弊社で一括して実施していきたいと考えています。

3つめは、コンセッション事業への参画です。愛知県道路コンセッション会社が運営している知多半島道路の休憩施設の設計に携わっています。知多半島道路の愛知県道路コンセッション会社の請負期間は30年間で、こうした事業も今後の増加が期待され、いち早く知見を得ることは重要であると考えています。

海外事業

グループ会社である片平エンジニアリング・インターナショナル（KEI）との連携強化で海外での建設コンサルタント業務も着実に伸びています。

近年では、ベトナム国、フィリピン国、カンボジア国、スリランカ国、アフリカのマラウイ国などでプロジェクトを実施しています。



今後の経営方針

片平エンジニアリングと新日本技研の合併後は200人の組織になりました。

今後は、仙台や広島など片平エンジニアリングが有していなかった拠点も増え、相乗効果による事業量の増が期待されます。合併後策定した中期経営計画では①人材の強化、②技術力の強化、③組織力の強化、④健全な財務、⑤事業領域の拡大の5つの基本方針を定めています。

①人材の強化については、社員教育の充実を図り、技術部門、一般管理部門ともに体系的な教育を行い、「個」のスキルアップを実施します。

②技術力の強化は、すでに3DレーザースキャナーやUAV（ドローン）、ETC2.0解析システム、大学との共同研究による路面表示の車両制動効果による安全対策、舗装路面状況の点検・維持管理システムなどに先行投資しています。今後はスマートフォンのWi-Fiパケットを使用した自動車の経路解析システムやCIM関連システムなどの開発を進めています。

③組織力の強化は、会社の持続的成長を確保するための取り組みともいえます。コンサルタントは「従業員そのもの」が資本です。効率よく業務を遂行するためには、従業員の健康を守らなければなりません。そのため、人員配置を工夫したり、ノー残業デーの実施による残業の削減、有給休暇取得計画の立案と実行、育児期や要介護を家族にもつ社員が働きやすいように働き方改革の施策を進めるよう、社員からアイデアを募って就業環境を改善することも行っていきます。

④健全な財務は、会社にとって死活的重要な分野で

す。売上管理から利益管理への転換を進めて、自己資金運営によるアドバンテージを発揮してさらなる技術開発を行い、利益を伸ばす好循環を構築していきたいと考えています。

⑤事業領域の拡大では、片平エンジニアリングと新日本技研の従来業務を補完し合うことがとても重要になります。現在、橋梁設計のみの単独発注はほとんどないため、交通量調査を行い、橋とアプローチ道路を一括で設計する業務などに対して、両社の長所を活かして行くことが出来ます。

また今後、成長が期待できる道路保全是、橋梁と法面・自然斜面および舗装などに対して、道路が得意な片平エンジニアリングと橋梁が得意な新日本技研が一緒になったことは、保全分野を強化する意味においても相乗効果が期待できます。高速道路は15年かけて大規模更新・大規模修繕事業を行っていますが、維持補修を行うためには、施工時の交通運用を考慮した施工手順・交通規制の計画、さらにPR・広報まで含めた対策が必要になり、当社の交通計画部門の実績を生かして、発注者に提案していくことが、弊社に求められている役割だと思えます。

最後になりますが、今後も建設コンサルタンツ協会の一員として、様々な情報を取り入れ、更なる発展をしていきたいと思えます。

交通インフラ総合コンサルタント
 株式会社 片平新日本技研
KATAHIRA & ENGINEERS INC.

平成29年度 意見交換会について

建設コンサルタンツ協会の重要事業としております、発注者との意見交換会は、建設コンサルタンツ協会本部の「要望と提案事項に支部会員からのアンケート調査、発注者の実態を把握・調査し、幹事会に諮り議題を決め、平成29年9月21日の岩手県県土整備部を始めに11月28日の宮城県土木部で終了しました。

岩手県県土整備部との意見交換会

日時 平成29年9月21日

出席者 (県) 中野 県土整備部長他 4名
(協会) 菅原支部長他幹事・会員 17名



中野 県土整備部長のご挨拶

議題 (協会)

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 技術力重視による選定
3. 品質の確保・向上
4. その他

秋田県建設部との意見交換会

日時 平成29年10月10日

出席者 (県) 小川 建設技監他 5名
(協会) 菅原支部長他幹事・会員 19名



小川 建設技監のご挨拶

議題 (協会)

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上
4. 建設コンサルタントの活用実態について
5. その他

仙台市との意見交換会

日時 平成29年10月24日

出席者 (仙台市) 鈴木 都市整備局長他 6名
(協会) 菅原支部長他幹事 22名



鈴木 都市整備局長のご挨拶

議題 (協会)

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 技術力重視による選定
3. 品質の確保・向上
4. その他

山形県県土整備部との意見交換会

日時 平成29年10月25日

出席者 (県) 角湯 県土整備部長他 12名
(協会) 菅原支部長他幹事・会員 23名



角湯 県土整備部長のご挨拶

議題 (協会)

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上
4. その他

青森県県土整備部との意見交換会

日時 平成 29 年 11 月 6 日

出席者 (県) 浅利 県土整備部長他 11 名
(協会) 菅原支部長他幹事・会員 18 名



浅利 県土整備部長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上
4. そ の 他

東北地方整備局との意見交換会

日時 平成 29 年 11 月 13 日

出席者 (整備局) 渡邊 企画部長他 8 名
(協会) 菅原支部長他幹事 17 名



渡邊 企画部長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 企業の経営環境向上と技術力向上のための適切な発注
2. 円滑な業務の執行への取り組みについて
3. 業務環境の改善と担い手確保のための取り組みについて
4. i-Construction の取り組みについて

福島県土木部との意見交換会

日時 平成 29 年 11 月 21 日

出席者 (県) 大河原 土木部長他 7 名
(協会) 菅原支部長他幹事・会員 22 名



大河原 土木部長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上
4. そ の 他

宮城県土木部との意見交換会 (3 団体合同)

(一社) 建設コンサルタンツ協会東北支部

(一社) 宮城県測量設計業協会

(一社) 全国地質調査業協会連合会東北地質調査業協会

日時 平成 29 年 11 月 28 日

出席者 (県) 櫻井 土木部長他 7 名
(協会) 菅原支部長他 3 団体 44 名



櫻井 土木部長のご挨拶

議 題 (協会)

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 技術力重視による選定と入札制度に関する要望と提案
3. 品質の確保・向上
4. 各協会からの要望と提案

「第8回 復興加速化会議」が開催される。

平成29年12月16日「第8回復興加速化会議」が東北地方整備局大会議室で開催されました。

この会議は、東日本大震災の被災地の復興を加速化するため、これまで施工確保のための様々な取り組みを行い、迅速な復旧・復興に務めてきた中で最近の復旧・復興に係わる状況について認識を共有し、さらに復興を加速させるためのもので、石井国土交通大臣出席のもと岩手・宮城・福島3県知事、仙台市長、国土交通省・復興庁・農林水産省及び経済産業省の各国の機関が出席しました。

また、復旧・復興に取り組んでいる業界団体として東北支部外7団体が出席し、東北支部からは菅原支部長が出席しました。

会議は石井国土交通大臣の挨拶に始まり、引き続き国の各機関・被災3県・仙台市及び業界団体から復旧・復興の進捗状況等のこれまでの対策と今後のとり組みについて報告がなされました。

最後に石井国土交通大臣から以下の発言(ポイント)がありました。

- 復旧・復興事業や住宅再建・まちづくりは課題を抱えつつも着実に進んでいる。引き続き、地域の取り組みを支援しながら「実感できる復興」に繋げていきたい。
- 生産性向上と働き方改革は、建設業が災害からの復旧・復興をはじめとした重要な役割を担う上で、“両輪”として取り組む必要がある。
- 中小企業でも生産性向上や働き方改革、教育・訓練機会確保等に取り組めるよう、地方自治体とも連携し、「東北復興働き方・人づくり改革プロジェクト」に取り組む。
- 震災の記録・記憶を生かしながら、将来の世代にも伝え、東北地方の安全・安心の確保や防災対応力の強化に繋がる取り組みも進める。

会議終了後、復旧・復興に向け出席者全員による写真撮影が行われました。



〈会議資料について〉

当日の会議において配布された全ての資料は、次の手順により閲覧できます。

・「東北地方整備局 HP」→「東日本大震災復興・伝承」→「会議・シンポジウム等」→「復興加速化会議」

RCCM 資格試験

シビルコンサルティングマネージャー（RCCM）の役割は、技術管理者または技術士のもとに、設計業務共通仕様書（旧建設省）において規定している管理技術者・照査技術者として、業務に関する技術上の事項を処理し、または業務の照査の任にあたるものです。

RCCM資格制度は、建設コンサルタンツ協会が平成3年度に創設し27年になります。平成7年度に建設省は標準契約約款の制定と、これに伴う共通仕様書の全面改訂を行い、これより設計業務等の受注にあたっては、管理技術者と照査技術者は技術士又はRCCM資格保有者と規定されました。

平成29年度のRCCM資格試験は平成29年11月12日仙台会場（東北工業大学）で実施され、521名が受験し、214名が合格しました。

なお、平成30年度のRCCM資格試験は、平成30年11月11日の予定です。

平成29年度受験地別・部門別合格状況

試験日 平成29年11月12日

合格発表 平成30年3月1日

受験地 部門	東 京			大 阪			福 岡			那 覇			札 幌			名古屋			仙 台			広 島			高 松			合 計		
	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)																											
1. 河川、砂防及び海岸	134	63	47.0	114	57	50.0	194	75	38.7	6	2	33.3	62	18	29.0	81	26	32.1	82	38	46.3	75	35	46.7	77	33	42.9	825	347	42.1
2. 港湾及び空港	35	19	54.3	13	3	23.1	29	8	27.6	8	2	25.0	5	2	40.0	6	2	33.3	8	4	50.0	8	0	0.0	7	1	14.3	119	41	34.5
3. 電力土木	10	4	40.0	7	2	28.6	1	0	0.0	0	0	0.0	1	1	100.0	3	2	66.7	0	0	0.0	2	1	50.0	1	1	100.0	25	11	44.0
4. 道 路	284	99	34.9	140	43	30.7	248	104	41.9	39	7	17.9	115	62	53.9	135	53	39.3	135	40	29.6	73	30	41.1	76	31	40.8	1245	469	37.7
5. 鉄 道	8	4	50.0	7	4	57.1	6	2	33.3	1	1	100.0	0	0	0.0	3	1	33.3	2	2	100.0	0	0	0.0	0	0	0.0	27	14	51.9
6. 上水道及び工業用水道	50	18	36.0	28	10	35.7	37	17	45.9	25	4	16.0	8	3	37.5	30	14	46.7	7	4	57.1	8	3	37.5	30	23	76.7	223	96	43.0
7. 下水道	72	30	41.7	36	17	47.2	43	23	53.5	15	4	26.7	3	3	100.0	23	12	52.2	17	12	70.6	19	8	42.1	23	10	43.5	251	119	47.4
8. 農業土木	28	21	75.0	16	8	50.0	66	32	48.5	18	3	16.7	32	17	53.1	29	13	44.8	32	19	59.4	14	7	50.0	16	2	12.5	251	122	48.6
9. 森林土木	10	4	40.0	6	4	66.7	19	12	63.2	1	0	0.0	2	0	0.0	16	3	18.8	4	1	25.0	4	1	25.0	1	1	100.0	63	26	41.3
10. 造 園	22	9	40.9	15	9	60.0	12	7	58.3	1	0	0.0	4	1	25.0	12	3	25.0	7	2	28.6	1	1	100.0	3	1	33.3	77	33	42.9
11. 都市計画及び地方計画	64	30	46.9	40	13	32.5	25	11	44.0	12	2	16.7	10	4	40.0	44	25	56.8	22	15	68.2	7	3	42.9	8	4	50.0	232	107	46.1
12. 地 質	26	6	23.1	19	10	52.6	29	19	65.5	1	1	100.0	7	2	28.6	13	9	69.2	9	7	77.8	7	3	42.9	13	5	38.5	124	62	50.0
13. 土質及び基礎	46	19	41.3	56	20	35.7	95	42	44.2	25	6	24.0	30	12	40.0	48	19	39.6	44	18	40.9	28	7	25.0	37	15	40.5	409	158	38.6
14. 鋼構造及びコンクリート	176	77	43.8	120	50	41.7	163	81	49.7	17	5	29.4	77	39	50.6	102	50	49.0	87	20	23.0	54	16	29.6	65	34	52.3	861	372	43.2
15. トンネル	25	8	32.0	9	4	44.4	24	8	33.3	0	0	0.0	5	0	0.0	18	14	77.8	5	2	40.0	13	11	84.6	18	16	88.9	117	63	53.8
16. 施工計画、施工設備及び積算	93	26	28.0	46	13	28.3	43	13	30.2	12	4	33.3	9	1	11.1	20	5	25.0	27	7	25.9	12	3	25.0	20	7	35.0	282	79	28.0
17. 建設環境	42	22	52.4	25	11	44.0	28	14	50.0	14	8	57.1	18	7	38.9	11	7	63.6	15	10	66.7	11	8	72.7	14	9	64.3	178	96	53.9
18. 機 械	12	4	33.3	6	2	33.3	2	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	3	3	100.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	23	9	39.1
19. 水産土木	6	5	83.3	0	0	0.0	6	3	50.0	3	1	33.3	9	3	33.3	1	1	100.0	8	7	87.5	4	2	50.0	1	1	100.0	38	23	60.5
20. 電気・電子	61	19	31.1	24	10	41.7	8	2	25.0	5	1	20.0	9	0	0.0	7	1	14.3	6	4	66.7	3	0	0.0	2	2	100.0	125	39	31.2
21. 廃棄物	7	5	71.4	3	1	33.3	0	0	0.0	0	0	0.0	1	0	0.0	3	2	66.7	1	1	100.0	0	0	0.0	0	0	0.0	15	9	60.0
22. 建設情報	28	9	32.1	7	1	14.3	8	2	25.0	1	0	0.0	4	0	0.0	7	2	28.6	3	1	33.3	1	0	0.0	2	2	100.0	61	17	27.9
合 計	1,239	501	40.4	737	292	39.6	1,086	475	43.7	204	51	25.0	411	175	42.6	615	267	43.4	521	214	41.1	344	139	40.4	414	198	47.8	5,571	2,312	41.5

平成29年度 RCCM 登録更新講習会

登録更新講習会は「シビルコンサルティングマネージャー（RCCM）資格制度施行規程」の第12条（登録の有効期間及び登録の更新）により、登録の有効期間は、合格証が交付された日から4年間で、登録の更新を受けようとする者は、更新の日から1年間に行われた登録更新講習会を受けなければならないことになっている。

平成29年度の登録更新講習会は、平成13、17、21、25年度の「RCCM資格試験」の合格者を主な対象者として、仙台会場（メトロポリタンホテル仙台）では、平成29年10月6日午前・午後に分かれて実施され、447名が受講されました。

なお、仙台会場での講習内容は下記のとおりです。

午前の部

1. 挨拶・講話 (一社) 建設コンサルタンツ協会 常任理事 馬場直俊
2. 技術課題と最近の動向 早稲田大学 教授 佐々木 葉
3. 建設コンサルタンの現状と課題 (一財) 国土技術研究センター 理事長 谷口博昭
4. 登録更新ガイド・修了証書交付

午後の部

1. 挨拶・講話 (一社) 建設コンサルタンツ協会 常任理事 馬場直俊
2. 技術課題と最近の動向 早稲田大学 教授 佐々木 葉
3. 建設コンサルタンの現状と課題 (一財) 国土技術研究センター 理事長 谷口博昭
4. 登録更新ガイド・修了証書交付

平成29年度 RCCM 登録更新講習会受講者数

会場名	申込者数	受講者数	受講率	実施月日		
札幌	午前	184	184	100.0%	10月17日	
	午後	233	233	100.0%		
仙台	午前	222	221	99.5%	10月6日	
	午後	227	226	99.6%		
東京	第一	午前	250	249	99.6%	9月27日
		午後	244	244	100.0%	
	第二	午前	210	209	99.5%	10月27日
		午後	260	260	100.0%	
	第三	午前	88	87	98.9%	12月8日
		午後	134	132	98.5%	
新潟	午後	146	146	100.0%	10月20日	
名古屋	午前	259	258	99.6%	10月11日	
	午後	259	259	100.0%		
大阪	第一	午前	202	202	100.0%	10月3日
		午後	237	237	100.0%	
	第二	午前	82	81	98.8%	12月1日
		午後	140	137	97.9%	
広島	午前	135	135	100.0%	11月29日	
	午後	188	187	99.5%		
高松	午前	139	139	100.0%	10月31日	
	午後	123	123	100.0%		
福岡	第一	午前	265	265	100.0%	10月12日
		午後	275	274	99.6%	
	第二	午前	64	63	98.4%	11月28日
		午後	132	130	98.5%	
沖縄	午後	135	131	97.0%	12月5日	
合計		4,833	4,812	99.6%		

(一社) 建設コンサルタンツ協会東北支部 50周年記念事業実行委員会

実行委員長 松川 秀敏

1. はじめに

(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部は50年前の昭和43年に創立して以来、社会資本整備を通じて、地域の発展に寄与してまいりました。特に平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、発災直後から現地へ赴き、被災地の調査や応急復旧に尽力してまいりました。

(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部では創立50周年を記念し、平成30年11月9日(金)ホテルメトロポリタンで創立50周年記念講演、記念式典・祝賀会を開催致します。

2. 50周年記念事業実行委員会のメンバー

50周年記念事業実行委員会のメンバーを紹介します。社会資本整備の必要性と建設コンサルタントの重要性を広く社会にアピールするため、不慣れではありますが、一生懸命頑張りますので皆様の御協力をお願いします。

統括：伊藤 篤 (東北支部副支部長)
 実行委員長：松川 秀敏 (広報委員長)
 委員：小泉 勝則 (総務部会副部会長)
 委員：佐藤 和昭 (企画部会副部会長)
 委員：向田 昇 (対外活動副委員長)
 委員：野村 稔彦 (技術部会副部会長)
 委員：今泉 敏郎 (技術交流専門委員会委員長)
 委員：熊坂 徹也 (情報部会副部会長)
 事務局：広報委員会

※()内は平成30年3月1日現在

3. 事業内容

50周年記念事業として以下を予定しております。

- ・記念誌の発行
- ・記念講演
- ・企画(座談会、東北インフラ写真集等)
- ・記念式典・祝賀会

4. 記念誌

50周年記念誌は、支部会委員の推移や歴代役員、

東北支部の活動、座談会や記念講演、記念式典・祝賀会の様子などをとりまとめ平成31年4月に発行する予定です。

5. 座談会

建コン東北支部総務部会、提言WG、若手の会により作成された「復興から創生そして近未来への提言」が中間報告として東北地整に提出され査読を受ける段階にあります。

東北支部50周年記念誌に掲載する企画として、作成に携わった方々の思い、提言を踏まえて行動していく若手(女性を含む)の抱負など、我々が東北において果たすべき役割について意見交換する座談会を開催する予定です。

6. 東北インフラ写真コンテスト

平成20年以降に完成した『行ってみたくなる東北の社会インフラ』の写真を集め、優秀作品は(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部創立50周年記念写真集に掲載すると共に、パネルにして各種式典やイベント等で紹介します。

このコンテストはどなたでも応募出来ますので、たくさんのお応募をお待ちしております。

7. 記念講演

記念式典・祝賀会に先立ち記念講演を開催します。講演者はこれから実行委員会で選定する予定ですが、東北ゆかりの著名人の中から「東北の未来」をテーマに、講演を行う予定で調整中です。

8. おわりに

50周年記念事業の実施にあたり、支部協会会員をはじめ関係者の皆様にはいろいろな形でご協力をお願いすることになりますが、今後ともご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

以上

講演会の報告

平成 29 年度の講演会は、「3.11 を忘れない～東北復興のあゆみ、そしてこれから～」をテーマとして、さる平成 29 年 11 月 9 日にホテル法華クラブ仙台にて開催されました。

講演会に先立ち、建設コンサルタンツ協会東北支部菅原稔郎支部長より主催者代表として、講演会のご挨拶をいたしました。

次に来賓として国土交通省東北地方整備局企画部長の渡邊泰也様よりご挨拶をいただきました。

講演会は、始めに「災害報道はどう変わったか～いのちとくらしを守るために」と題して、入江さやか様（NHK 放送文化研究所 上級研究員）よりご講演をいただきました。次に、「将来にわたって持続可能性の高い復興とは？～知恵と工夫で東北の未来は明るくなる」と題して、角田陽介様（UR 都市機構 特定戦略課長、元大船渡市副市長）よりご講演をいただきました。

入江様からは、①災害報道とは何か②NHK の災害報道③災害情報は どう変わったか④多様化するメディアと災害情報⑤「新たな災害のステージ」にどう備えるかについて NHK 入局以来、報道局での取材報道経験を踏まえて、報道最前線の写真等を織り交ぜ、『東日本大震災』『H27 年関東東北豪雨』『H28 年台風 10 号』等、東北地方に被害をもたらした災害にも触れたご講演をいただきました。普段私たちがあまり意識せず NHK のニュースや報道に接している裏で、報道する側は「『わがこと』と思ってもらえる情報を」と心がけ、SNS や視聴者の撮影画像の活用などを取り入れている話なども交えるなど、身近でわかりやすいお話しをいただきました。これからは、新たな災害の時代に生きている事を私たちが認識し、平時から住民や自治体とともに建設コンサルタントとして、地域の災

害時の特徴を把握した備え（意識）を持つことの必要性を改めて感じました。

角田様からは、大船渡市の将来人口をシミュレーションした上で、自治体の多くが人口減少は避けられない現実であり、復興でのインフラ整備の初期投資以上に将来にわたって負担し続けなければならないランニングコストを如何にミニマイズするか！の意識の重要性を説明いただきました。



UR 都市機構 特定戦略課長 角田陽介氏

また、東日本大震災後の 2012 年 4 月から 4 年間岩手県大船渡市で副市長として復興の陣頭指揮を取り、『防潮堤』『災害復興住宅』『防災集団移転促進事業』に携わった事例紹介に加えて、市が出資した『まちづくり会社』に取締役として経営に参画されたお話も伺えることができました。その中で他の自治体でありがちな「市長が社長となったまちづくり会社が実質は市そのもの」となって失敗する事を避け、実効性のあるまちづくり会社とする為に「必要なときは公的な立場に立つ一方で民間企業の良さが出る仕組みを整えた」ことで成功し、『日本まちづくり大賞』を受賞した話も印象に残りました。最後に ILC などを機に「世界のオンリーワン」を目指すことと「将来に柔軟に対応できるまちづくり」が明るい東北の鍵を握るという角田様の意見も伺い、そのための「過去の成功体験を捨てる覚悟も必要」の言葉は、時代や環境変化への対応を常に意識している我々建設コンサルタントにとっても改めて重要なキーワードと受け止めました。

以上 2 つの講演を通じて、今回も時宜を得た有用な情報が提供できたのではと考えております。

今後もこのような講演会を開催したいと思っておりますので、多くの会員の皆様の参加をお待ちしております。



NHK 放送文化研究所 入江さやか氏

[支部だより]

10月3日(火)～4日(水)

東北地方整備局「道路行政(計画)研修」へ講師派遣
 講師/岡田 篤(大日本C株)
 石川 正樹(日本工営株)
 小島 淳(日本工営株)

10月6日(金)

RCCM登録更新講習会
 場所/ホテルメトロポリタン仙台
 主催 本部 受講者 447名

10月10日(火)

秋田県との意見交換会
 場所/アキタパークホテル
 秋田県 小川 建設技監 他 5名
 協会 菅原支部長 他 19名
 議題/建コンからの提案議題
 (1)魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
 (2)技術力による選定
 (3)品質の確保・向上
 (4)建設コンサルタントの活用実態について
 (5)その他

10月11日(水)

ふくしま市町村支援機構「市町村建設事業担当職員研修」へ講師派遣
 講師/深瀬 貴之(株ニュージェック)

10月11日(水)～13日(金)

岩手県土木技術専門研修「一般構造物等」(第1期)へ講師派遣
 講師/北原 一彦(株オリエンタルC)
 山部 哲(株建設技術研究所)
 松尾新二郎(日本工営株)
 榊原 信夫(川崎地質株)
 向江 正夫(株東京建設C)

10月12日(木)

土研新技術ショーケース2017in 仙台
 場所/フォレスト仙台
 主催 国立研究開発法人土木研究所
 共催 (一社)建設コンサルタンツ協会東北支部

10月17日(火)

情報セキュリティ講習会
 場所/パレス宮城野
 主催 本部 情報委員会・情報セキュリティ専門委員会
 東北支部 情報部会 受講者 52名

10月18日(水)

品質セミナー「エラー防止」
 場所/ホテル法華クラブ仙台
 主催 本部 受講者 124名

10月18日(水)

地盤・防災専門委員会合同現場見学会
 主催 技術部会 地盤・防災専門委員会
 参加者 18名

10月18日(水)

福島県土木部職員専門研修「監督業務(設計)」へ講師派遣
 講師/橋本 智雄(中央開発株)

10月19日(木)

地域コンサルタント委員会
 場所/支部会議室
 議題/(1)地域コンの抱える課題検討について
 (2)モニタリング調査の新たな依頼について
 (3)その他

10月20日(金)

技術部会(道路専門委員会)
 場所/支部会議室

10月20日(金)

若手の会

10月24日(火)

仙台市との意見交換会
 場所/仙台市役所 会議室
 仙台市 鈴木 都市整備局長 他6名
 協会 菅原 支部長 他22名
 議題/建コンからの提案議題
 (1)魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
 (2)技術力重視による選定
 (3)品質の確保・向上
 (4)その他

支部だより

10月25日(水)

山形県との意見交換会

場 所／山形県自治会館

山形県 角湯 県土整備部長他 12名

協 会 菅原支部長他 23名

議 題／建コンからの提案議題

- (1)魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
- (2)技術力による選定
- (3)品質の確保・向上
- (4)そ の 他

10月25日(水)～27日(金)

岩手県土木技術専門研修「一般構造物等」

(第2期)へ講師派遣

講 師／北原 一彦 (株オリエンタルC)

山部 哲 (株建設技術研究所)

松尾新二郎 (日本工営株)

船山 淳 (パシフィックC株)

向江 正夫 (株東京建設C)

10月25日(水)～26日(木)

福島県土木部職員専門研修「土木中堅」へ講師派遣

講 師／佐藤 和憲 (陸奥テックC株)

前田 修 (中央C株)

内田 浩勝 (株建設技術研究所)

10月26日(木)

総務部会 (WG)

場 所／支部会議室

10月27日(金)

技術部会 (道路専門委員会)

場 所／支部会議室

10月27日(金)

河川・環境専門委員会合同現場見学会

主 催 技術部会 河川・環境専門委員会

参加者 33名

11月1日(水)

構造・道路専門委員会合同現場見学会

主 催 技術部会 構造・道路専門委員会

参加者 36名

11月2日(木)

RCCM試験監督員説明会

場 所／(株)復建技術C 会議室

11月6日(月)

青森県との意見交換会

場 所／アラスカ

青森県 浅利 県土整備部長他 11名

協 会 菅原支部長他 18名

議 題／建コンからの提案議題

- (1)魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
- (2)技術力による選定
- (3)品質の確保・向上
- (4)そ の 他

11月9日(木)

平成29年度講演会「3.11を忘れない」

～東北復興のあゆみ、そしてこれから～

場 所／ホテル法華クラブ仙台

講 演／「災害報道はどう変わったか

－いのちとくらしを守るために－」

NHK放送文化研究所

上級研究員 入江 さやか 氏

「将来にわたって持続可能性の高い復興と？

－知恵と工夫で東北の未来は明るくなる－」

UR都市機構 特定戦略課長 (元大船渡市副市長)

角田 陽介 氏

主 催 (一社)建設コンサルタンツ協会東北支部広報委員会

後 援 国土交通省東北地方整備局、河北新報社、日刊建設工業新聞社、日刊建設産業新聞社、日刊建設通信新聞社、建設新聞社

協 賛 公益社団法人土木学会東北支部、公益社団法人日本技術士会東北支部他

参加者 180名

(一般、官公庁、他 100名、建コン会員 80名)

11月12日(日)

平成29年度RCCM資格試験

場 所／東北工業大学

10:00～16:45

主 催 (社)建設コンサルタンツ協会

(受験者数 仙台会場 521名)

11月13日(月)

東北地方整備局との意見交換会

場 所／合同庁舎 B 棟 2 階共用第 2 会議室

整備局 渡邊 企画部長 他 8 名

協 会 菅原 支部長 他 17 名

議 題／建コンからの提案議題

- (1)企業の経営環境向上と技術力向上のための適切な発注について
- (2)円滑な業務の執行への取り組みについて
- (3)業務環境の改善と担い手確保のための取り組みについて
- (4)i-Construction の取り組みについて

11月17日(金)

若手技術者ワールドカフェ in 杜の都

場 所／戦災復興記念館

主 催 総務部会 若手の会 参加者 51 名

11月17日(金)

建コンボウリング大会

場 所／仙台プレイボウル 参加者 32 名

主 催 総務部会

11月20日(月)

独占禁止法研修会

場 所／建設産業会館

講 師／公益財団法人 公正取引協会
客員研究員 杉浦 総一郎 氏

- (一社) 建設コンサルタンツ協会東北支部、
 - (一社) 宮城県測量設計業協会、
 - (一社) 日本補償コンサルタント協会東北支部、
 - (一社) 全国上下水道コンサルタント協会東北支部、
 - (一社) 東北測量設計協会、
 - (一社) 東北地質調査業協会、6 団体の共催
- 出席者 255 名 (建コン会員 112 名)

11月21日(火)

福島県との意見交換会

場 所／杉妻会館

福島県 大河原 土木部長他 7 名

協 会 菅原支部長他 22 名

議 題／建コンからの提案議題

- (1)魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
- (2)技術力による選定
- (3)品質の確保・向上
- (4)その他 (自由討議)

11月22日(水)～12月6日(水)

技術士模擬面接

主 催 技術部会

11月28日(火)

宮城県との意見交換会 (3 団体合同)

(一社) 建設コンサルタンツ協会東北支部

(一社) 宮城県測量設計業協会

(一社) 全国地質調査業協会連合会東北地質調査業協会

場 所／TKP ガーデンシティ仙台勾当台

宮城県 櫻井 土木部長他 7 名

協 会 菅原支部長他 3 団体 44 名

議 題／建コンからの提案議題

- (1)魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
- (2)技術力重視による選定と入札制度に関する要望と提案
- (3)品質の確保・向上
- (4)各協会からの要望と提案

11月29日(水)

河川講習会

場 所／ハーネル仙台

主 催 技術部会 (河川専門委員会)
受講者 110 名 (建コン会員 81 名)

12月6日(水)

構造・道路専門委員会合同技術講習会

場 所／ハーネル仙台

主 催 技術部会 構造・道路専門委員会
受講者 82 名

12月6日(水)

福島県農林水産部農林土木技術研修へ講師派遣

講 師／山本 晃弘 (株総合技術 C)

12月7日(木)

地盤・防災専門委員会合同技術職員研修会

場 所／パレス宮城野

主 催 技術部会 地盤・防災専門委員会
受講者 19 名

12月8日(金)

第 5 回役員会

場 所／パレス宮城野

議 題／(1)平成 30 年度事業計画及び予算(案)について
(2)各部会・委員会からの連絡事項
(3)そ の 他

支部だより

12月8日(金)
講演会「建設コンサルタントを取り巻く最近の話題」
場 所／パレス宮城野
講 師 本部 木谷 副会長 参加者 103 名

12月8日(金)
支部忘年会
場 所／パレス宮城野
主 催 総務部会 出席者 110 名

12月11日(月)
対外活動委員会
場 所／支部会議室
議 題／(1)各県との意見交換会報告
(2)平成 30 年の予定
(3)そ の 他

12月12日(火)
技術部会（道路専門委員会）
場 所／支部会議室

12月13日(水)
ふくしま市町村支援機構「市町村建設事業担当
職員研修」へ講師派遣
講 師／石井 一人（パシフィック C 株）

12月19日(火)
情報部会
場 所／支部会議室
議 題／(1)各講習会の実施報告
(2)来年度の各講習会の日程について
(3)そ の 他

12月19日(火)
広報委員会
議 題／(1)建コン創立 50 周年記念事業について
(2)役割分担
(3)そ の 他

12月21日(木)
総務部会（WG）
場 所／支部会議室

1月16日(火)
総務部会（WG）
場 所／支部会議室

1月18日(木)
広報委員会
場 所／支部会議室
議 題／(1)J C C A TOHOKU の編集、作業分担
(2)50 周年記念事業準備

1月18日(木)
平成 29 年度環境セミナー
場 所／TKP ガーデンシティ仙台東口
主 催 技術部会（環境専門委員会）
受講者 61 名

1月26日(金)
第 6 回役員会
場 所／事務局会議室
議 題／(1)支部役員改選について
(2)東北土木技術人材育成協議会関係について
(3)各部会・委員会からの連絡事項他

2月8日(木)～9(金)
青森県建設技術センター「一般構造物研修会」
へ講師派遣
講 師／向江 正夫（株東京建設 C）
石井 一人（パシフィック C 株）

2月13日(火)
経営者委員会
場 所／ホテル法華クラブ仙台
議 題／(1)本部地域コンサルタント委員会の報告
(2)本部・支部意見交換会について
講話：「最近の建設行政を巡る話題」
東北地方整備局 企画部 技術調整管理官
永井 浩泰 氏

2月13日(火)
福島県土木部「道路橋示方書に関する説明会」
へ講師派遣
講 師／石井 一人（パシフィック C 株）

2月14日(水)
第 16 回 高校生「橋梁模型」作品発表会
場 所／せんだいメディアテーク
主 催 高校生「橋梁模型」作品発表会実行委員会
(当支部他 5 団体共催)

2月15日(木)

情報部会

場 所／支部会議室

議 題／(1)平成 30 年度事業計画(案)について
 (2)ホームページアンケートについて
 (3)講習会について他

2月23日(金)

技術部会（道路専門委員会）

場 所／支部会議室

2月27日(火)

対外活動委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1)本部との意見交換会に向けた意見調整
 (2)平成 30 年度意見交換会課題整理
 (3)年間スケジュール確認、その他

3月6日(火)

建コン本部と支部との意見交換会

場 所／パレス宮城野

本 部 村田会長 他 10 名

支 部 菅原支部長 他 26 名

議 題／1. 平成 30 年度「要望と提案」(案)について
 2. 平成 30 年度「白書」(第一次原稿)
 について
 3. 支部からの提案
 4. そ の 他

3月16日(金)

総務部会（WG）

場 所／支部会議室

[会員の動向]

◆ 会員の異動（次の方が就任されました）

- 平成29年10月1日 (株)福田水文センター 東北営業所
所 長 林 克恭
- 平成29年11月1日 協和設計(株) 東北支店
支店長 奥村 徹
- 平成29年12月4日 (株)総合技術コンサルタント 東北支店
支店長 明石 直光
- 平成29年12月15日 セントラルコンサルタント(株) 東北支社
支社長 光森 泰紀

◆ 名称変更

- 平成29年11月1日 協和設計(株) 東北支店
(旧 協和設計(株) 仙台事務所)

◆ 住所変更

- 平成29年10月1日 (株)福田水文センター 東北営業所
〒980-0014 仙台市青葉区本町3-6-18
TEL 022-224-1417（変更なし）
FAX 022-224-1140（変更なし）
- 平成29年10月1日 (株)千代田コンサルタント 東北支店
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2
TEL 022-214-6261（変更なし）
FAX 022-214-2545（変更なし）

一般社団法人 建設コンサルタント協会 東北支部 会員名簿

会員4月1日現在 103社

会社名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング	東北支社	〒981-3133 仙台市泉区泉中央2-25-6	022-343-8166
朝日航洋(株)	東北空情支社	〒981-3131 仙台市泉区七北田字古内1-1	022-771-2382
アジア航測(株)	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-4-28	022-216-3553
(株)アスコ大東	東北支店	〒980-6010 仙台市青葉区中央4-6-1	022-724-7530
(株)東コンサルタント	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字正内町101	0246-23-8424
(株)アーバン設計	本社	〒963-0201 福島県郡山市大槻町字御前東46-26	024-961-7500
いであ(株)	東北支店	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-1-11	022-263-6744
(株)ウエスコ	東北事務所	〒981-1106 仙台市太白区柳生1-11-8	022-797-5271
(株)ウヌマ地域総研	本社	〒010-0965 秋田県秋田市八橋新川向13-19	018-863-5809
エイト技術(株)	本社	〒031-0072 青森県八戸市城下2-9-10	0178-47-2121
(株)エイト日本技術開発	東北支社	〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161	022-712-3555
応用地質(株)	東北支社	〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町3-21-2	022-237-0471
(株)オオバ	東北支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-4	022-261-8861
(株)オリエンタルコンサルタツ	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1	022-215-5522
開発虎ノ門コンサルタント(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24	022-292-5220
(株)片平新日本技研	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-722-3130
川崎地質(株)	北日本支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-4-16	022-792-6330
(株)菊池技研コンサルタント	本社	〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字石橋前6-8	0192-27-0835
基礎地盤コンサルタツ(株)	東北支社	〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2-9-23	022-291-4191
キタイ設計(株)	東北支社	〒980-0801 仙台市青葉区木町通2-6-53	022-343-5416
(株)キタコン	本社	〒036-8051 青森県弘前市大字宮川1-1-1	0172-34-1758
(株)キタツク	仙台事務所	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-1-37	022-265-1051
(株)橋梁コンサルタント	東北事務所	〒960-8043 福島県福島市中町4-20	024-524-2381
(株)協和コンサルタツ	東北支社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-14	022-266-6073
協和設計(株)	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-722-2235
(株)近代設計	東北支社	〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161	022-217-6750
(株)ケー・シー・エス	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2	022-224-1591
(株)建設環境研究所	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央4-10-3	022-265-0666
(株)建設技術研究所	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-15-1	022-261-6861
(株)建設技術センター	仙台営業所	〒982-0262 仙台市青葉区西花苑2-15-23	022-302-1195
(株)コウキコンサルタント	本社	〒996-0902 福島県喜多方市松山町村松字小荒井道西405-10	0241-24-2701
(株)構研エンジニアリング	東北営業所	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-203	022-344-6231
(株)郡山測量設計社	本社	〒963-8041 福島県郡山市富田町字十文字54-3	024-952-5200
(株)国際開発コンサルタツ	仙台支店	〒980-0011 仙台市青葉区一番町1-5-25	022-225-6201
国際航業(株)	東北支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-45	022-299-2801
国土防災技術(株)	東北支社	〒984-0075 仙台市若林区清水小路6-1	022-216-2586
(株)コサカ技研	本社	〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字上碓田56-2	0178-27-3444
(株)コンテック東日本	本社	〒030-0122 青森県青森市大字野尻今田91-3	017-738-9346
(株)寒河江測量設計事務所	本社	〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153-1	0237-86-5520
(株)サトー技建	本社	〒984-0816 仙台市若林区河原町1-6-1	022-262-3535
(株)三協技術	本社	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-8-14	022-224-5503
三協コンサルタント(株)	本社	〒994-0062 山形県天童市長岡北1-2-1	023-655-5000
サンコーコンサルタント(株)	東北支店	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-38	022-273-4448
(株)三和技術コンサルタント	本社	〒995-0015 山形県村山市楯岡二日町7-21	0237-55-3535
柴田工事調査(株)	本社	〒012-0801 秋田県湯沢市岩崎字南五条61-1	0183-73-7171
(株)庄内測量設計舎	本社	〒999-7781 山形県東田川郡庄内町余目字三人谷地69-9	0234-43-2459
昭和(株)	東北支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-6-1	022-742-5301
(株)昭和土木設計	本社	〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南4-1-23	019-638-6834
新和設計(株)	本社	〒992-0021 山形県米沢市大字花沢880	0238-22-1170
(株)新和調査設計	本社	〒963-8016 福島県郡山市豊田町4-12	024-934-5311
シェアール東日本コンサルタツ(株)	東北支店	〒983-0853 仙台市宮城野区東六番丁31-2	022-211-0872
セントラルコンサルタント(株)	東北支社	〒980-0822 仙台市青葉区立町27-21	022-264-1923

会社名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
(株) 創研コンサルタント	本社	〒010-0951 秋田県秋田市山王1-9-22	018-863-7121
(株) 総合技術コンサルタント	東北支店	〒980-0804 仙台市青葉区大町1-3-2	022-268-4191
創和技術(株)	本社	〒010-0951 秋田県秋田市山王6-20-7	018-863-4545
(株) 高島テクノロジーセンター	東北支店	〒980-6117 仙台市青葉区中央1-3-1	022-721-5401
玉野総合コンサルタント(株)	仙台支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-7-20	022-716-6646
(株) 田村測量設計事務所	本社	〒990-0023 山形県山形市松波4-12-3	023-642-6644
第一復建(株)	仙台事務所	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-722-3701
(株) ダイエット	本社	〒965-0831 福島県会津若松市表町2-53	0242-26-1253
大日コンサルタント(株)	仙台事務所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-225-5626
大日本コンサルタント(株)	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35	022-261-0404
(株) ダイアコンサルタント	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-4-1	022-263-5121
大和工営(株)	本社	〒996-0053 山形県新庄市大字福田字福田山711-43	0233-22-2422
(株) 地圏総合コンサルタント	仙台支店	〒980-0803 仙台市青葉区国分町1-2-1	022-261-6466
中央開発(株)	東北支店	〒984-0016 仙台市若林区蒲町東20-6	022-766-9121
(株) 中央技術コンサルタンツ	東北支店	〒981-3131 仙台市泉区中央2-16-12	022-375-6787
中央コンサルタンツ(株)	仙台支店	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-27	022-722-2541
中央復建コンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7	022-267-1459
中電技術コンサルタント(株)	東北営業所	〒981-0014 仙台市青葉区本町1-13-22	022-397-8173
中部復建(株)	東北支社	〒980-0801 仙台市青葉区木町通2-5-18	022-274-8190
(株) 長大	仙台支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26	022-781-8628
(株) 千代田コンサルタント	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2	022-214-6261
(株) 東京建設コンサルタント	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-222-8887
東京コンサルタンツ(株)	東北支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-20	022-265-3891
(株) 東建工営	本社	〒981-1227 名取市杜せきのした1-2-7	022-383-9811
(株) トーニチコンサルタント	東北事務所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-262-0243
(株) ドーコン	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-225-2860
東邦技術(株)	本社	〒014-0041 秋田県大仙市大曲丸子町2-13	0187-62-3511
(株) 東北開発コンサルタント	本社	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-15-33	022-225-5661
(株) 東北構造社	本社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3	022-227-1877
日栄地質測量設計(株)	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字作町1-3-2	0246-21-3111
(株) 日水コン	東北支所	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-7-17	022-222-1101
日本工営(株)	仙台支店	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-1-11	022-227-3525
(株) 日本構造橋梁研究所	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-1-7	022-713-6657
(株) 日本港湾コンサルタント	東北支社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-5	022-215-9051
日本振興(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10	022-291-3810
(株) ニュージェック	東北支店	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2	022-301-7611
パシフィックコンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1	022-302-3940
(株) パスコ	東北事業部	〒983-0864 仙台市宮城野区名掛丁205-1	022-299-9511
(株) 東日本建設コンサルタント	本社	〒974-8261 福島県いわき市植田町林内26-5	0246-63-6063
(株) 福田水文センター	東北営業所	〒980-0014 仙台市青葉区本町3-6-18	022-224-1417
(株) 福山コンサルタント	東北支社	〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-17	022-262-0118
富士コンサルタンツ(株)	仙台支店	〒982-0013 仙台市太白区太子堂10-20	022-395-6216
(株) ふたば	本社	〒963-1111 福島県双葉郡富岡町大字小浜字中央592	0240-22-0261
(株) 双葉建設コンサルタント	本社	〒996-0002 山形県新庄市金沢字谷地田1399番11	0233-22-0891
(株) 復建エンジニアリング	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-3-10	022-267-2765
(株) 復建技術コンサルタント	本社	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25	022-262-1234
復建調査設計(株)	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-723-5830
三井共同建設コンサルタント(株)	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央4-10-3	022-225-0489
陸奥テックコンサルタント(株)	本社	〒963-8011 福島県郡山市若葉町17-18	024-922-2229
八千代エンジニアリング(株)	東北支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町1-23	022-261-8344
(株) 横浜コンサルティングセンター	仙台支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-18	022-262-1493

編集後記

本誌が会員の皆様へ届く頃は、寒さも和らぎ春の訪れを肌で感じ、また様々な場所で新しい始まりを目にしているかと思いません。

今年は冬季オリンピックイヤーでした。韓国で開催された平昌オリンピックに熱い声援を送っていた方も多かったのではないのでしょうか。私もその一人でした。個人的にはスノーボードのハーフパイプに大歓声を上げておりました。

一方国内では、各地で大雪に見舞われた年でした。特に福井県嶺北地方や石川県加賀地方で記録的な大雪となり、福井県内の国道では約1,500台の車が立ち往生するなどの被害が発生しました。東北管内でも山形県大蔵村肘折では積雪416cmと過去最高を記録するなど、雪に関するニュースが非常に多い冬でした。

被害に遭われました皆様へ心よりお見舞い申し上げます。

東日本大震災から7年が経過いたしました。震災を風化させないよう努めることも我々の使命であると共に、被災地のさらなる復旧・復興に建設コンサルタンツ協会一丸となり、今後もより一層力を入れ取り組んで行きたいと思えます。

さて、最後になりますが今年も「EE東北'18」が開催されます。去年の来場者数はEE東北過去最多の15,700人となり、来場者記録を更新いたしました。今年も多くの皆様にご来場いただけますことを期待いたします。

建設技術公開「EE東北'18」～広げよう新技術 つなげよう未来へ～

開催日時：平成30年6月6日（水） 10：00～16：30

7日（木） 9：00～16：00

開催場所：夢メッセみやぎ（宮城県仙台市宮城野区港3丁目1-7）

（平成30年3月 樋口章大 記）

JCCA TOHOKU Vol.57

発行	一般社団法人 建設コンサルタンツ協会東北支部 〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-6-11 アーク仙台ビル TEL 022-263-6820			
編集	広報委員長	松川秀敏	副委員長	佐藤敏倫
	副委員長	菊池透	広報委員	佐藤雅樹
	広報委員	大友正樹	〃	遠藤徹也
	〃	大場秀行	〃	高橋力
	〃	高橋伸彰	〃	高橋力
	〃	樋口章大	〃	庄司敏彦
	〃	海藤剛	〃	武田浩幸
	〃	横川勝美		
事務局	新野俊晴・小川みゆき			
印刷	ハリウコミュニケーションズ株式会社 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 TEL 022-288-5011			



..... 明日への風、東北から

ロゴのデザインについて

三本の流れは、東北から発進する新しい風と〔文化〕を象徴したものであり、その中の白い三角は東北独自の〔風土〕と〔歴史〕をイメージしたものである。